

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月22日
【事業年度】	第110期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	日本ギア工業株式会社
【英訳名】	NIPPON GEAR CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 勝村 哲
【本店の所在の場所】	神奈川県藤沢市桐原町7番地
【電話番号】	(0466)45-2100番
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 小倉 達朗
【最寄りの連絡場所】	神奈川県藤沢市桐原町7番地
【電話番号】	(0466)45-2125番
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 小倉 達朗
【縦覧に供する場所】	日本ギア工業株式会社横浜支店 (神奈川県横浜市西区北幸一丁目11番11号 NOF横浜西口ビル9階) 日本ギア工業株式会社大阪支店 (大阪府吹田市江の木町26番30号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次 決算年月	第106期 平成20年3月	第107期 平成21年3月	第108期 平成22年3月	第109期 平成23年3月	第110期 平成24年3月
売上高 (千円)	10,759,382	11,417,847	9,828,921	10,511,130	11,150,823
経常利益 (千円)	697,377	814,840	553,578	924,534	1,213,938
当期純利益 (千円)	657,295	425,953	321,340	263,066	380,801
持分法を適用した場合 の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	1,388,800	1,388,800	1,388,800	1,388,800	1,388,800
発行済株式総数 (千株)	14,280	14,280	14,280	14,280	14,280
純資産額 (千円)	4,562,657	4,833,424	5,136,781	5,313,800	5,589,881
総資産額 (千円)	9,904,830	10,406,327	9,682,280	10,974,959	11,383,408
1株当たり純資産額 (円)	320.90	340.10	361.54	374.06	393.60
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当 額) (円)	5.0 (2.5)	6.0 (3.0)	4.0 (-)	5.0 (-)	6.0 (2.0)
1株当たり当期純利益 金額 (円)	46.21	29.97	22.61	18.52	26.81
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.06	46.45	53.05	48.42	49.11
自己資本利益率 (%)	15.02	9.07	6.45	5.03	6.98
株価収益率 (倍)	7.36	7.18	17.82	18.52	13.88
配当性向 (%)	10.82	20.02	17.69	27.00	22.38
営業活動によるキャッ シュ・フロー (千円)	612,925	828,141	450,217	1,191,573	671,985
投資活動によるキャッ シュ・フロー (千円)	402,468	441,704	179,975	124,202	192,287
財務活動によるキャッ シュ・フロー (千円)	219,589	270,624	175,997	182,886	381,051
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	797,938	913,643	1,007,846	1,892,268	1,990,895
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	393 (105)	392 (115)	393 (120)	374 (126)	378 (128)

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 第107期の1株当たり配当額には、創立70周年記念配当1円を含んでおります。
4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

当社は、昭和13年12月5日晴山自動車工業株式会社として設立され、歯車製造に専念し、昭和29年には商号を現社名に変更しました。その後、蓄積された歯車製造技術を基礎に歯車装置の分野へ進出し、米国メーカーとの技術提携により製品の多様化を図り、現在に至っております。

大正12年1月	晴山自動車機械工場として発足
昭和13年12月	株式会社に改組 晴山自動車工業株式会社を設立 東京都港区白金三光町 資本金 80万円
25年12月	東京都品川区東品川へ移転
29年12月	商号を現社名、日本ギア工業株式会社に変更
33年4月	現商標  を制定
35年7月	蒲田工場を新設 減速機部門を強化
36年9月	大阪支店を開設
10月	東京及び大阪証券取引所第二部に上場
38年6月	米国フィラデルフィア・ギア社と「リミトルク」バルブ・コントロールに関する技術援助契約締結
43年3月	資本金を6億円に増資
6月	米国フィラデルフィア・ギア社とP.T.E.ミキサーに関する技術援助契約締結
10月	神奈川県藤沢市桐原町に藤沢本社・工場完成 品川・蒲田・六郷の三工場を集約するため移転
10月	東京支店を開設
46年12月	福岡営業所を開設
47年4月	名古屋営業所を開設
5月	広島営業所を開設
48年4月	米国フィラデルフィア・ギア社と、ポンプドライブ及びハイスピード・ギアドライブに関する技術援助契約締結
51年6月	(株)ニチギ・エンジニアリングを設立
52年6月	札幌営業所・仙台営業所を開設
6月	米国フィラデルフィア・ギア社とシンクロドライブ及びギアパックに関する技術援助契約締結
6月	リミトルク、カナダ「CSA規格」(電気機器安全国家規格)を取得
54年8月	建設大臣より、一般建設業(電気工事業及び機械器具設置工事業)の許可を受ける
12月	ニチギ整備(株)を設立
55年5月	リミトルク、米国規格IEE E 382の原子力関連検証試験に合格
8月	リミトルク、「CENELEC」(欧州電気機械統一規格)の防爆規格に合格
60年4月	RCエンコーダの生産販売を開始
63年1月	MAC(リミトルク診断業務)のサービスを開始
8月	ストリングスクリューの生産販売を開始
平成2年3月	第三者割当増資を実施 払込資本金13億8,880万円となる
3年1月	高精度歯車研削工場増設
5年2月	福島県双葉郡楢葉町にリミトルク福島サービスセンターを開設
9月	ベルギーハンセン・インターナショナル社のハンセン減速機の組立・販売を開始
6年9月	英国オーガストシステムズ社とCS300コントロールシステムに関する販売代理店契約締結
7年3月	品質保証の国際規格ISO9001の認証を取得
8年3月	ニチギ整備(株)が(株)エム・オー・ブイ・サービス(資本金750万円)を吸収合併
7月	ニチギ整備(株) 商号を(株)ギアシステムズに変更
12年8月	東京支店を閉店し、横浜支店を開設
13年12月	MOVDA S(電動弁運転中診断装置)の販売を開始
14年4月	(株)ニチギ・エンジニアリング及び(株)ギアシステムズを吸収合併
17年2月	米国原子力発電所にトルクセンサー納入
19年2月	環境ISO14001の認証を取得
8月	リミトルク、国際規格整合の水素防爆検定を取得
22年1月	電動アクチュエータの生産累計台数30万台を達成
22年2月	ハイスピードジャッキの生産販売を開始

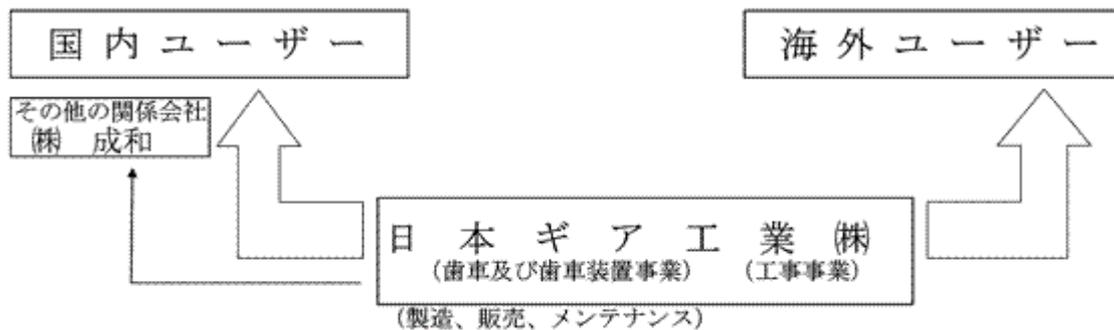
3【事業の内容】

当社の事業はバルブ・コントロール、ジャッキ、その他の増減速機並びに自動車用歯車、特殊車両用歯車、その他各種歯車の製造、販売とこれらに付帯するメンテナンスを行っております。

事業内容は、次のとおりであります。

セグメントの名称	主要製品
歯車及び歯車装置事業	バルブ・コントロール、ジャッキ、ミキサー、その他の増減速機、自動車用歯車、特殊車両用歯車、鉄道・船舶用歯車、その他各種歯車
工事事業	バルブ・コントロール、ジャッキ、ミキサー、その他の増減速機とこれらに付帯するメンテナンス等

上記当社の状況について図示すると次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

関係会社は次のとおりであります。

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有又は被所有割合 (%)	関係内容
(その他の関係会社) (株)成和 (注)	東京都港区	45,000	歯車及び歯車装置事業、工 事事業	被所有 26.58	当社製品の販売 役員の兼任等...無

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
2. 有価証券報告書を提出していません。

5【従業員の状況】

(1)提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
378 (128)	38.7	15.4	6,038,441

セグメントの名称	従業員数(人)
歯車及び歯車装置事業	213 (80)
工事事業	113 (31)
報告セグメント計	326 (111)
全社(共通)	52 (17)
合計	378 (128)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー他を含む)は、年間の平均人員を()内に外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2)労働組合の状況

当社の労働組合は、日本ギア工業労働組合と称し、平成24年3月31日現在における組合員数は277人で、自動車総連三菱自動車労働組合連合会に加盟しております。

なお、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当期におけるわが国経済は、欧州政府の債務危機、資源価格の上昇、為替の急激な変動等の影響など厳しい状況の中でしたが、東日本大震災に伴う復旧・復興需要や政府の景気刺激策により、設備投資・個人消費は緩やかな回復基調で推移し、景気は持ち直しの傾向を示しています。

当社のセグメント別受注概況は、歯車及び歯車装置事業ではバルブ・コントロール、ジャッキ及びその他の増減速機について需要が堅調で増加いたしました。また、歯車につきましても主要需要先である自動車用、鉄道・船舶用の受注が好調に増加いたしました。これにより歯車及び歯車装置事業では受注が大幅に増加いたしました。工事業業では復旧需要により微増となりました。

その結果、当期の受注高は113億96百万円（前期比8.2%増）、売上高は111億50百万円（前期比6.1%増）となりました。一方、当期末の受注残高は35億1百万円（前期末比7.5%増）となりました。

損益面につきましては、東日本大震災後の復旧・復興需要等により、営業利益は12億39百万円（前期比32.2%増）、経常利益は12億13百万円（前期比31.3%増）、当期純利益は一部の固定資産が遊休状態となったことにより、将来の回収可能性を勘案した結果、帳簿価額を回収可能額まで減額して減損損失2億50百万円を特別損失に計上いたしました。3億80百万円（前期比44.8%増）となりました。

各セグメントの業績は次のとおりです。

歯車及び歯車装置事業につきましては、バルブ・コントロールの受注高は、原子力発電所向けは減少したものの、火力発電所向けが大幅に増加したことや、上下水道、石油、輸出、船舶、鉄鋼、化学向けが増加したことにより、前期比13.8%増加いたしました。売上高は、原子力発電所、輸出、化学、船舶向けが減少したものの、火力発電所、上下水道、石油、鉄鋼向けが増加したため、前期比0.5%の微増となりました。ジャッキにつきましては、産業用機械、電子関連向けの設備投資に回復傾向が強まり、受注高は前期比14.9%、売上高は前期比17.9%それぞれ増加いたしました。その他の増減速機につきましては、受注高は前期比11.2%増加し、売上高も前期比24.3%増加いたしました。歯車の受注高は、その他産業機械用は減少したものの、自動車用、建設機械用、鉄道・船舶用が増加したため、前期比8.1%増加いたしました。売上高は、鉄道・船舶用が減少したものの、自動車用、建設機械用、その他産業機械用が増加したため、前期比14.4%増加いたしました。以上の結果、歯車及び歯車装置事業では、受注高は前期比12.0%増加し、売上高も前期比8.7%増加いたしました。

工事業業につきましては、受注高は原子力発電所向けが大幅な減少となりましたが、火力発電所、上下水道向けが大きく増加して減少分を補い、前期比0.9%の微増となりました。売上高も原子力発電所向け的大幅な減少を、火力発電所、上下水道向け的大幅な増加で補い、前期比1.1%の微増となりました。

(2)キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、19億90百万円となり前事業年度末と比べ98百万円（前年同期比5.2%）の増加となりました。当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、6億71百万円（同43.6%減）となりました。これは主に、税引前当期純利益9億54百万円、減価償却費3億63百万円、仕入債務の増加2億45百万円、減損損失2億50百万円、退職給付引当金の増加49百万円等の収入に対し、売上債権の増加3億85百万円、たな卸資産の増加2億34百万円、法人税等の支払い6億51百万円等の支出によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により支出した資金は、1億92百万円（同54.8%増）でありました。これは主に有形固定資産の取得による支出1億59百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により支出した資金は、3億81百万円（同108.4%増）となりました。これは主に、社債の発行による収入3億95百万円に対し、長期借入金の返済による支出が5億74百万円、リース債務の返済による支出が61百万円、配当金の支払額99百万円によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1)生産実績

当事業年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
歯車及び歯車装置事業(千円)	7,596,855	9.4
工事業(千円)	-	-
合計(千円)	7,596,855	9.4

- (注) 1.金額は販売価格によっております。
 2.上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3.工事業については、事業の性格上生産高実績は算出しておりません。

(2)受注状況

当事業年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
歯車及び歯車装置事業(千円)	7,761,988	12.0
工事業(千円)	3,634,392	0.9
合計(千円)	11,396,380	8.2

- (注) 1.金額は受注価格で示してあります。
 2.上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3)販売実績

当事業年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
歯車及び歯車装置事業(千円)	7,557,920	8.7
工事業(千円)	3,592,902	1.1
合計(千円)	11,150,823	6.1

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

歯車及び歯車装置事業のうち、バルブ・コントロールにつきましては、発電所及び上下水道向けの拡販を中心に進めていくと共に、製品開発とコスト低減を推進してまいります。ジャッキにつきましては、設備投資意欲の先行きが不透明なことから、既存顧客ヘリプレースの提案を行い、営業上の結びつきをより強固にすると共に、新たな顧客層を開拓し、ジャッキを組み合わせた昇降装置等の拡販に取り組んでまいります。その他の増減速機につきましては、既設品のメンテナンス等を推奨する営業活動を展開してまいります。歯車につきましては、自動車用、建設機械用、その他産業機械用の需要に応えるべく生産性の向上を推し進め、収益力の強化に取り組んでまいります。工事業のうち、火力発電所向けにつきましては、各種点検整備の提案を継続してまいります。原子力発電所向けにおきましては、長期停止対策の点検整備を提案してまいります。また石油、ガス、上下水道向けにつきましても点検整備の積極的な提案を推進し、メンテナンスの受注を維持拡大すると共に、引き続き技術員のレベルアップに注力してまいります。

4【事業等のリスク】

当社の経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1)災害等の影響について

当社は、自然災害及び火災等のリスクを抱えておりますが、防火委員会等の活動にて防止対策に取り組んでおります。しかし重大な災害等が発生した場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2)特定分野への依存

当社の事業は国内市場に大きく依存しております。歯車装置及び工事では主要取引先であります電力関係の設備投資の抑制及び定期点検工事の期間延長、公共投資の予算削減等は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。また、歯車では自動車関連、建設機械関連の特定取引先の比率が高くなった場合、当該取引先の経営方針や市場動向などによりましては、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3)固定資産の減損会計について

当社は、歯車及び歯車装置を製造、販売するメーカーであり、これらの製造設備を保有しております。このため、地価の動向及び対象となる固定資産の収益状況等によりましては、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4)原材料の価格変動の影響について

当社の製品は主として鋳物等の鉄製品、銅合金等の非鉄製品を原材料として使用しております。従いまして、鉄、非鉄製品の市場価格が上昇する局面では取引業者から価格引き上げの要請があります。当社では、3社以上による相見積もりにより価格交渉にあっておりますが、今後市場価格が大幅に高騰した場合には、原材料費の上昇を抑えきれず、また、販売価格の転嫁が十分に図れない場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5)コンピューター設備について

当社はホストコンピューターの設備を保有しております。基幹業務が電算システムにより処理されている状況下にあっては何等かの事業システムの停止は生産活動に重大な影響をもたらします。災害やウイルスなどによるシステム停止など、有事に際しシステム復旧が遅れるような状態となった場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6)コンプライアンス・リスクについて

当社は、法令遵守の徹底を目的に社内倫理綱領を制定し重要と思われる行動指針を定め「コンプライアンスガイドライン」を作成し、役員・従業員に配布し、周知徹底を行っております。しかしながら法令違反等が発生し、それに伴い社会的信用を失墜し、経済的制裁を受ける可能性がないとは言えません。

(7)製品、メンテナンスの品質について

当社の歯車装置は発電所や上下水道などインフラ設備に使用されており、歯車は自動車や建設機械等に使用されております。当社は製品の製造、メンテナンスについては品質管理体制を整えて取り組んでおりますが、予期せぬ原因で製品、メンテナンスに重大な欠陥が生じた場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

受入技術契約

相手先の名称	契約の内容	契約期間
フローサーブUS・インク(米国)	バルブ・コントロールの製造販売及び技術資料の供与	自 平成20年7月1日 至 平成25年6月30日

(注) 上記についてはロイヤリティとして売上高の一定率を支払っております。

6【研究開発活動】

当社の研究活動は、主に歯車及び歯車装置事業の歯車装置に取り組んでおり、継続している電子式アクチュエータの製品化につとめると同時に、災害時にも機能する製品として電源喪失時の対応品、火災時の対応品などの開発、既存製品の改良開発にも推進しております。また、付加価値を高めるための周辺機器の開発、現在の製法にあう改良開発などにも取り組んでいます。

なお、当事業年度の研究開発費の総額は、1億65百万円となっています。

歯車及び歯車装置事業

(バルブ・コントロール)

バルブコントロールにおいては電子式A E型アクチュエータの開発が完了し、本年度の上期には量産へ向けての試作品が完成する予定です。本アクチュエータはインテリジェント機能を持ち、通信機能には産業用オープンネットワークの一つであるPROFIBUSを採用、国内初となる2重化(冗長化)に対応しています。

また、石油・化学プラントにおいて火災時でも動作可能なアクチュエータとして、従来の耐火強度を高めた、米国のUL規格に適合する耐火型アクチュエータの開発を進めています。

(ジャッキ・精機)

ジャッキにおいては、シール強化型ジャッキシリーズの開発計画を推進し、付加価値を高めるための周辺機器の開発を推進しています。

また、精機では特に攪拌機の現在の製法に対応できるコストダウン型インペラの改良開発に取り組んでいます。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社の財務諸表はわが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成されております。

この財務諸表の作成にあたっての決算日における資産、負債の報告数値並びに報告期間における収入、費用の報告数値に影響を与える見積もり及び判断は、重要な会計方針及び過去の実績等を勘案して合理的に判断しております。

(1)財政状態の分析

(資産の部)

流動資産は、前事業年度末と比べ6億73百万円(前年同期比8.8%)増加し83億19百万円となりました。これは主に売掛金が1億1百万円減少しましたが、現金及び預金が98百万円、受取手形が4億80百万円、たな卸資産が2億25百万円増加したことによるものであります。固定資産は、前事業年度末と比べ2億65百万円(同8.0%)減少し30億63百万円となりました。これは主にリース資産が1億9百万円増加しましたが、機械及び装置が1億8百万円、土地が2億45百万円減少したことによるものであります。

(負債の部)

流動負債は、前事業年度末と比べ1億70百万円(同4.7%)増加し38億23百万円となりました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が1億32百万円、未払法人税等が1億41百万円減少しましたが、支払手形が1億98百万円、買掛金が47百万円、1年内償還予定の社債が80百万円、未払金が1億26百万円増加したことによるものであります。固定負債は、前事業年度末と比べ38百万円(同1.9%)減少し19億70百万円となりました。これは主に社債が2億80百万円、リース債務が86百万円、退職給付引当金が49百万円増加しましたが、長期借入金が4億42百万円減少したことによるものであります。

(純資産の部)

純資産の部は、前事業年度末と比べ2億76百万円(同5.2%)増加し55億89百万円となりました。これは主に利益剰余金が2億81百万円増加したことによるものであります。

(2)経営成績の分析

(売上高)

売上高は、前事業年度と比べ6億39百万円(同6.1%)増加し111億50百万円となりました。このうち歯車及び歯車装置事業につきましては、6億1百万円増加いたしました。これは、パルプ・コントロールにつきましては、原子力発電所、輸出、化学、船舶向けが減少いたしました。火力発電所、上下水道、石油、鉄鋼向けが増加いたしました。ジャッキにつきましては、産業用機械、電子関連向けの設備投資が増加いたしました。その他の増減速機につきましては、ミキサーが減少いたしました。補修用部品等が増加いたしました。歯車につきましては、鉄道・船舶向けが減少いたしました。自動車用、建設機械用、その他産業機械用が増加いたしました。

工事業につきましては、原子力発電所向けに大幅な減少を、火力発電所、上下水道向けに大幅な増加で補い、37百万円増加いたしました。

(売上原価、販売費及び一般管理費)

売上高の増加に伴う材料費の増加があり、人件費は賞与等は減少いたしました。退職給付費用が増加いたしました。また、試験研究費は9百万円減少いたしました。外注加工費が87百万円増加したことにより、売上原価、販売費及び一般管理費は前事業年度と比べ3億37百万円(同3.5%)増加いたしました。

この結果、売上総利益は前事業年度と比べ2億73百万円(同8.7%)増加し34億31百万円となり、営業利益は前事業年度と比べ3億2百万円(同32.2%)増加し12億39百万円となりました。

(営業外収益、営業外費用)

営業外収益は雇用調整助成金等の減少により前事業年度と比べ3百万円(同11.3%)減少し28百万円となり、営業外費用は社債発行費の発生により前事業年度と比べ9百万円(同20.2%)増加し53百万円となりました。

この結果、経常利益は前事業年度と比べ2億89百万円(同31.3%)増加し12億13百万円となりました。

(特別利益、特別損失)

特別利益は7百万円となり、特別損失は前事業年度と比べ12百万円(同4.8%)増加し2億67百万円となりました。主な内容は、特別利益では受取補償金の計上7百万円であり、特別損失では固定資産の遊休に伴い計上した減損損失2億50百万円であります。

(法人税、住民税及び事業税)

法人税、住民税及び事業税は、前事業年度とほぼ同額の5億11百万円となりました。また、法人税等調整額は61百万円となりました。

この結果、当期純利益は前事業年度と比べ1億17百万円(同44.8%)増加し3億80百万円となりました。

なお、各事業部門の分析及びキャッシュ・フローの分析は、1 [業績等の概要]に記載しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資は、老朽化した機械装置の更新及び生産性の向上を図ることを重点に実施しました。

主な投資としては、歯車及び歯車装置事業において複合加工機154,324千円、バルブ・コントロール用部品の型代40,167千円、歯車装置試験用冷却塔更新9,040千円、製品工程業務管理システム改修8,922千円、リミットスイッチ超低速動作試験機3,072千円、工事業においてトルクテスト台4,118千円、直流モータテスト用DC電源3,500千円があります。また全社で使用している電話交換機の更新19,518千円の投資を実施いたしました。

2【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、次のとおりであります。

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬 具 (千円)	工具器具 備品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資 産 (千円)	建設仮勘 定 (千円)		合計 (千円)
藤沢工場 (神奈川県藤沢 市)	歯車及び歯 車装置事業	生産設備	313,634	258,149	45,425	326,761 (29,842.43)	296,674	5,505	1,246,151	175 (70)
藤沢本社 (神奈川県藤沢 市)	全社(共通)	統轄業務施 設	104,946	38,871	12,290	16,967 (4,379.52)	66,418	-	239,494	52 (17)
藤沢事業所他 12事業所	工事業	歯車装置 メンテナ ンス設備	73,564	34,109	8,338	669,562 (7,623.07)	5,575	-	791,149	113 (31)
横浜支店他6営 業所	歯車及び歯 車装置事業	販売業務 設備	8,367	28	1,891	-	1,491	-	11,778	38 (10)

(注) 1. 金額には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数の()は、臨時雇用者数を外数で記載しております。

3. 上記の他、主要な賃借している設備として、以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	数量	リース期間 (年)	年間リース料 (千円)	リース契約残 高(千円)
藤沢工場 (神奈川県藤沢市)	歯車及び歯車 装置事業	横型マシニングセンター (所有権移転外ファイ ナンス・リース)	1台	7	12,837	9,628
	歯車及び歯車 装置事業	横中ぐりフライス盤 (所有権移転外ファイ ナンス・リース)	1台	7	8,310	20,775
	歯車及び歯車 装置事業	歯車研削機 (所有権移転外ファイ ナンス・リース)	1台	7	23,144	46,288

3【設備の新設、除却等の計画】

当社の設備投資については、販売予測、投資効率等を総合的に勘案して決定しております。

なお、当事業年度末現在における設備投資計画は439,000千円であり、その主な内訳は次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
藤沢工場 (神奈川県藤沢市)	歯車及び歯 車装置事業	生産設備	250,000	-	自己資金 借入金 リース	平成 24.4	平成 25.3	-
藤沢本社 (神奈川県藤沢市)	全社(共通)	統括業務 施設	155,000	-	自己資金 借入金 リース	平成 24.4	平成 25.3	-
藤沢事業所他 12事業所	工事業業	歯車装置 メンテナ ンス設備	34,000	-	自己資金 借入金 リース	平成 24.4	平成 25.3	-

(注) 1. 金額には消費税等は含まれておりません。

2. 重要な除却の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	57,000,000
計	57,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月22日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	14,280,000	14,280,000	東京証券取引所 (市場第二部) 大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	14,280,000	14,280,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成14年8月20日	-	14,280,000	-	1,388,800	400,000	448,348

(注) 資本準備金の減少額は、平成14年6月27日開催の定時株主総会の決議に基づくその他資本剰余金への振替であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	6	6	49	3	-	1,105	1,169	-
所有株式数(単元)	-	1,968	12	6,766	22	-	5,392	14,160	120,000
所有株式数の割合(%)	-	13.89	0.08	47.78	0.16	-	38.09	100	-

(注) 1. 自己株式77,936株は「個人その他」に77単元及び「単元未満株式の状況」に936株を含めて記載していません。

2. 上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社成和	東京都港区西新橋1丁目14番9号	3,744	26.22
株式会社三田商店	岩手県盛岡市中央通1丁目1番23号	1,027	7.19
日本ギア取引先持株会	神奈川県藤沢市桐原町7日本ギア工業(株)内	744	5.21
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町2丁目6番1号	714	5.00
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	551	3.85
荒井忍	徳島県阿南市	520	3.64
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	400	2.80
サンワテクノス株式会社	東京都中央区八重洲2丁目8番7号	306	2.14
株式会社損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿1丁目26番1号	298	2.08
清橋 篤子	東京都目黒区	212	1.48
佐藤 成子	東京都大田区	212	1.48
計	-	8,729	61.13

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 77,000	-	単元株式数1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,083,000	14,083	同上
単元未満株式	普通株式 120,000	-	-
発行済株式総数	14,280,000	-	-
総株主の議決権	-	14,083	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株が含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本ギア工業株式会社	神奈川県藤沢市桐原町7番地	77,000	-	77,000	0.54
計	-	77,000	-	77,000	0.54

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないもの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	3,566	1,218,487
当期間における取得自己株式	200	62,400

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	77,936	-	78,136	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、収益力向上による企業体質の強化を図りつつ、株主の皆様にご利益を還元することを経営の重点政策の一つと位置づけ、安定的な配当の継続を基本に、業績に応じた利益の配分、内部留保充実の観点からこれらを総合的に判断しつつ配当を決定しております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株につき6円の配当(うち中間配当2円)を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向は22.38%となりました。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術の強化及び生産体制を整備するために有効な投資を志し、まいりたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成23年10月28日 取締役会決議	28,408	2.0
平成24年6月22日 定時株主総会決議	56,808	4.0

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第106期	第107期	第108期	第109期	第110期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	1,310	450	485	405	394
最低(円)	222	204	216	250	281

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第二部)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	平成23年11月	平成23年12月	平成24年1月	平成24年2月	平成24年3月
最高(円)	337	340	365	360	365	372
最低(円)	305	306	321	336	337	356

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第二部)におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長		目黒 洋二	昭和21年12月4日	昭和44年4月 株式会社第一銀行入行 平成10年6月 当社顧問 " 10年10月 当社管理部長 " 11年6月 当社取締役管理部長 " 16年6月 当社常務取締役 " 18年6月 当社常務取締役経理部長 " 20年4月 当社代表取締役社長 " 24年4月 当社取締役会長(現任)	(注)2	31
取締役社長 (代表取締役)		勝村 哲	昭和27年9月4日	昭和54年4月 当社入社 平成15年1月 当社企画部長 " 18年4月 当社執行役員企画部長 " 19年6月 当社取締役企画部長 " 20年4月 当社常務取締役企画部長 " 21年4月 当社常務取締役企画開発部長 " 22年4月 当社常務取締役 " 24年4月 当社代表取締役社長(現任)	(注)2	21
常務取締役	工場長兼歯車 装置製造部長	伊藤 政夫	昭和27年3月14日	昭和50年4月 当社入社 平成14年10月 当社資材部長 " 15年6月 当社総務部長 " 18年4月 当社執行役員総務部長 " 19年6月 当社取締役総務部長 " 20年4月 当社取締役管理部長 " 24年4月 当社常務取締役工場長兼歯車 装置製造部長(現任)	(注)2	20
取締役	営業部長	薄井 潔	昭和25年12月14日	昭和44年4月 当社入社 平成15年10月 当社工事業部長 " 16年4月 当社執行役員工事業部長 " 18年6月 当社取締役工事業部長 " 22年4月 当社取締役営業部長 " 23年2月 当社取締役営業部長兼横浜支 店長 " 23年4月 当社取締役営業部長(現任)	(注)2	11
取締役	技術部長	鈴木 雄三	昭和26年10月30日	昭和49年4月 当社入社 平成18年7月 当社アクチュエータ事業部部 長(技術担当) " 19年4月 当社執行役員アクチュエータ 事業部副事業部長(技術担 当) " 22年4月 当社執行役員技術部長 " 22年6月 当社取締役技術部長(現任)	(注)2	10
取締役	工事部長	武山 新治	昭和26年3月9日	昭和44年4月 当社入社 平成9年12月 当社第一営業部第二グループ 福島サービスセンター所長 " 14年4月 当社工事業部福島サービス センター所長 " 22年4月 当社執行役員工事部長 " 24年6月 当社取締役工事部長(現任)	(注)2	3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	管理部長	小倉 達朗	昭和34年7月9日	昭和58年4月 株式会社第一勧業銀行入行 平成20年11月 みずほ銀行芝支店支店長 " 23年7月 当社へ出向 当社顧問 " 23年10月 当社管理部部长代理 " 24年4月 当社管理部部长 " 24年6月 当社取締役管理部部长(現任)	(注)2	-
常勤監査役		中善寺 昭雄	昭和26年9月23日	昭和45年4月 当社入社 平成18年4月 当社アクチュエータ事業部部长(製造担当) " 19年4月 当社執行役員本社工場長兼口 ジスティックス室長 " 22年4月 当社執行役員歯車装置製造部 長 " 22年6月 当社取締役歯車装置製造部 長 " 24年4月 当社取締役 " 24年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)3	11
監査役		三田 義之	昭和37年8月15日	昭和61年1月 株式会社三田商店入社 平成元年6月 南部土地株式会社代表取締役 社長(現任) " 元年7月 株式会社三田商店取締役 " 3年7月 株式会社三田商店代表取締役 社長(現任) " 12年6月 当社監査役(現任)	(注)4	42
監査役		原田 肇	昭和22年9月10日	昭和49年4月 弁護士登録(現任) 平成19年6月 当社監査役(現任)	(注)4	-
監査役		森 信人	昭和28年10月14日	昭和52年4月 朝日生命保険相互会社入社 平成15年4月 同社法人営業統括部門金融公 務ユニット ゼネラルマネー ジャー " 19年4月 同社執行役員営業企画統括部 門長 " 21年4月 同社常務執行役員総務人事統 括部門長 " 21年6月 当社監査役(現任) " 21年7月 朝日生命保険相互会社取締役 常務執行役員総務人事統括部 門長(現任)	(注)5	-
計						146

(注)1. 監査役三田義之、原田肇及び森信人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2. 平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

3. 平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から3年間

4. 平成23年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6. 当社では、監督及び業務執行に係る経営管理組織強化のため執行役員制度を導入しております。執行役員は3名で、歯車製造部長久保田博、品質保証部長藤原勇、工事部部长西部担当田淵康徳で構成されております。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は次のとおりであります。

当社は、ステークホルダーである取引先、金融機関、株主、従業員等との良好かつ適切な関係の構築、維持を通じて収益を上げ企業価値を高めることを経営の最重要課題の一つとして位置づけております。

この課題達成のためには、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることにより、経営の透明性を確保し、意思決定の迅速化、適時適切な企業情報の開示、コンプライアンスの徹底を行っていかねばならないと考えております。

企業統治の体制

イ．企業統治の体制の概要

．会社の機関

(a)取締役会

当社の取締役会は取締役7名（有価証券報告書提出日現在）で構成され、経営の基本方針、法令で定められた重要事項を決定するとともに、業務執行の監督を行う機関として原則として月1回開催、さらに必要に応じて随時開催しております。

(b)経営会議

当社は、取締役及び執行役員をメンバーとする経営会議を月2回程度開催しており、意思決定の迅速化を図るとともに、業務執行の進捗状況を経営判断に反映させることとしております。

(c)監査役会

当社は監査役制度を採用しており、監査役会を設置しております。監査役会は社外監査役3名を含む4名で構成され、監査役会規則に基づき監査計画を策定し、取締役の業務執行に関する監査を行っております。

(d)会計監査人

当社は、大有ゼネラル監査法人与監査契約を締結し、定期的な監査を受け、その結果に基づいて会計上の課題についても助言、指導を受け、適正な会計処理に努めております。

ロ．企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役会設置会社であります。当社は現行会社法の下で、現状の体制により企業統治の充実を図っていくことが、当社の規模及び業態から最も適切かつ有効であると考えます。

ハ．内部統制システム整備の状況

当社は「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合するための体制、その他会社の業務の適正を確保するための体制」について次のとおり取締役会で決議しております。

．取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(a)当社は、法令遵守はもとより社会倫理に反すること無く業務の適正性を保持することが企業活動を行う上で最も基本的な事項であると考え、社内倫理綱領を制定するとともに、役員、従業員へこれらの企業風土の普及定着化活動に全力を注ぐことといたします。

(b)社長を委員長とし、取締役、担当部署員をメンバーとする内部統制委員会を設置し、法令遵守、リスク管理等の啓蒙普及に関する基本方針及び施策の総括を行ってまいります。また、内部統制委員会の下に、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会及び開示委員会を設置して、それぞれ法令遵守、リスク管理及び適時開示につき、具体的な施策を審議いたします。各委員会の決定事項は執行部に対し報告され施策が実施されます。

(c)取締役会は毎月1回開催され、代表取締役の業務の執行状況を監督しております。取締役会には、社外監査役3名を含む監査役が出席し、監査役として必要な意見を述べることとなっております。

(d)通報者に対する不利益扱いを禁止した内部通報制度を構築し、疑義ある行為の事前チェックや違法行為の摘発及び、健全な事業経営の運営を図ってまいります。

(e)社長直轄の内部監査部門は、各部門の業務執行状況を監査し、その結果を社長に報告するものいたします。

．取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報は、法令及び社内規則の定めるところにより、適正に保存及び管理をいたします。

・ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

内部統制委員会及びその下にあるリスク管理委員会では、リスクに関する規程類等の制定、当社の当面または今後予想されるリスクの評価、及び重要なリスクについての管理に関する施策を検討審議し、体制の整備を行ってまいります。

・ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (a) 当社の最高の業務執行決定機関である取締役会は毎月1回、社長の諮問機関である経営会議は毎月2回開催され、効率的な会社の意思決定プロセスを形成しておりますが、その他必要に応じ、機動的に臨時的経営会議を開催し、迅速な意思の決定を行い、またその時点での最善の方策を選択できる体制を整備し、効率的な経営を目指すことといたします。
- (b) 期初に年間の事業計画を策定し、目標設定を行った上で、実施状況の進捗管理を実施してまいります。

・ 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社に子会社はありませんので、本項は該当しません。

・ 監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役が必要とした場合には、執行部は監査役の職務を補助する使用人を置くものとします。なお、監査役の職務を補助する使用人の独立性の確保に関しては、監査役会の意見を尊重して決定するものとします。

・ 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (a) 当社に重大な損失を与えるおそれのある事項及び不正行為や重要な法令定款違反行為を認知した場合、その他監査役が必要と認める事項について監査役に報告するものとします。
- (b) 監査役は取締役会、経営会議等の重要会議に出席し業務の執行状況を監査するものとします。
- (c) 監査役は代表取締役との定期的な意見交換会を開催し、会計監査人及び内部監査部門との連携を図り、適切な監査業務を遂行いたします。

・ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力・団体とは、取引関係を含め一切の関係を遮断し、組織全体として毅然とした態度で対応することを「社内倫理綱領」に定め基本方針としております。万一反社会的勢力等との間で問題が発生した場合には、組織的に対応するとともに、早い段階で警察・弁護士等とも緊密な連携を取ることとしております。また、平素においても総務課を窓口として、所轄の警察署や企業防衛連絡協議会等の外部専門機関との連携を通じ、情報収集や協力体制の構築に努めております。

内部監査及び監査役監査の状況

イ．内部監査及び監査役監査の組織等

・ 当社の内部監査室は社長直轄の組織で人員は3名、年2回程度監査役へも報告を行い、必要に応じてその都度監査役と意見交換のための会合を行っております。

・ 監査役会は常勤監査役1名及び社外監査役3名で構成され、各監査役、会計監査人、内部監査人から報告を受けて監査報告書を作成しております。また、常勤監査役は重要な会議（経営会議及び部長会他）にも出席して取締役の業務執行について監視を行っております。

ロ．内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係

・ 監査役は、期中、期末には会計監査人から監査報告を受けるとともに、必要に応じてその都度意見交換のための会合を行っております。また、内部監査室は監査役及び会計監査人に対して監査報告を行うとともに、必要に応じてその都度意見交換のための会合を行っております。

・ 内部統制部門は内部監査室、会計監査人から日常業務監査及び財務報告に係る監査等を受けております。また、改善事項がある場合には内部監査室は具体的に指示し、改善結果を確認しております。

社外取締役及び社外監査役

イ．社外監査役の人数

当社の社外監査役は3名であります。

ロ．社外監査役と提出会社との人的関係、資本関係、又は取引関係その他利害関係

．社外監査役三田義之と当社とは特別の利害関係はありません。また社外監査役三田義之は、当社の7.19%（発行済株式総数における所有株数）を保有する大株主である株式会社三田商店の代表取締役であります。株式会社三田商店と当社との間には18百万円（平成23年度）の仕入関係がありますが、重要な販売・仕入れ等の取引関係にはなっておらず、当社社外監査役としての独立性は保たれており、株式会社三田商店と当社との間に特別な関係はありません。

．社外監査役原田肇は弁護士であり、当社の顧問としてご指導をいただいております。また、コンプライアンスの専門的知見を有し、株式会社東京証券取引所及び株式会社大阪証券取引所の定める独立役員として最適と考え指定いたしております。社外監査役原田肇と当社との間に締結されている顧問契約は、通常の範囲内のものであり、社外監査役としての独立性は保たれております。また社外監査役原田肇はファナック株式会社の社外監査役であります。ファナック株式会社と当社との間に特別な関係はありません。

．社外監査役森信人は、当社の5.00%（発行済株式総数における所有株数）を保有する大株主である朝日生命保険相互会社の取締役であります。社外監査役森信人と当社とは特別の利害関係はありません。当社は朝日生命保険相互会社から1億84百万円（平成24年3月31日現在）の借入残高があり、朝日生命保険相互会社と当社との間に981千円（平成23年度）の保険契約に基づく保険料の支払関係があります。しかし朝日生命保険相互会社の保険契約の規模に鑑みると、特別な利害関係を生じさせる重要性はなく、社外監査役としての独立性は保たれており、朝日生命保険相互会社と当社との間に特別な関係はありません。

ハ．社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割、選任状況に関する提出会社の考え方

当社は社外取締役を選任しておりませんが、上記ロ、に記載のとおり独立性を保った社外監査役が、取締役会へ出席し、監査会等における常勤監査役より社外監査役への社内重要情報の伝達説明等による情報共有化により、経営陣に対する監視監督機能を果たしていると考えます。なお当社は、社外監査役の選任にあたっては独立性の基準は定めておりません。当社の企業統治に経験と見識を活かしていただける方を選任しております。

ニ．社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、監査役会において、常勤監査役を通じて内部監査部門の情報を入手し、また会計監査人からの報告を受け、意見交換を行い相互に連携を計っております。

ホ．社外取締役に代わる社内体制を採用する理由

当社は現在社外取締役を選任しておりません。社外監査役は取締役会へ出席するとともに、監査役会等における常勤監査役よりの社内重要情報の伝達説明を受け、各監査役の独立した立場から独自の判断のもとに経営監視を行っており、社外取締役に代替する機能を十分に果たしていると考えます。当社の規模・業態から現状の体制が適正であると考えております。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役	103,710	74,160	-	29,550	-	6
監査役 (社外監査役を除く。)	19,500	15,600	-	3,900	-	1
社外役員	9,750	7,800	-	1,950	-	3

ロ．使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

総額(千円)	対象となる役員の員数(人)	内容
44,040	4	使用人としての給与であります。

ハ．役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

23銘柄 334,401千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)日伝	18,978	46,877	取引関係の維持等
(株)クボタ	59,465	46,620	同上
(株)横浜銀行	102,954	40,666	同上
(株)みずほフィナンシャルグループ	250,560	34,577	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	61,000	23,424	同上
サンワテクノス(株)	26,256	18,904	同上
岡野パルプ製造(株)	34,550	17,171	同上
東亜パルプエンジニアリング(株)	10,700	17,066	同上
(株)三井住友フィナンシャルグループ	5,984	15,474	同上
日本軽金属(株)	94,000	15,416	同上
コスモ石油(株)	51,890	13,439	同上
(株)明電舎	25,000	9,250	同上
前澤工業(株)	32,760	9,009	同上
(株)荏原製作所	13,041	5,790	同上
中央三井トラスト・ホールディングス(株)	19,200	5,664	同上
みずほ信託銀行(株)	62,222	4,666	同上
野村ホールディングス(株)	10,000	4,350	同上
椿本興業(株)	17,000	3,604	同上
(株)神鋼環境ソリューション	10,000	2,560	同上
第一生命保険(株)	16	2,008	同上
(株)ササクラ	1,000	407	同上

(注) 中央三井トラスト・ホールディングス(株)は、平成23年4月1日付で経営統合により三井住友トラスト・ホールディングス(株)となりました。

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)クボタ	61,409	48,820	取引関係の維持等
(株)日伝	19,232	42,734	同上
(株)横浜銀行	102,954	42,622	同上
(株)みずほフィナンシャルグループ	284,159	38,361	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	61,000	25,132	同上
サンワテクノス(株)	26,256	21,792	同上
(株)三井住友フィナンシャルグループ	5,984	16,294	同上
東亜バルブエンジニアリング(株)	10,700	13,589	同上
コスモ石油(株)	55,962	12,871	同上
日本軽金属(株)	94,000	12,408	同上
岡野バルブ製造(株)	36,607	10,250	同上
前澤工業(株)	32,760	7,600	同上
(株)明電舎	25,000	7,525	同上
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	19,200	5,068	同上
榎本興業(株)	17,000	4,641	同上
(株)荏原製作所	13,041	3,873	同上
(株)神鋼環境ソリューション	10,000	3,790	同上
野村ホールディングス(株)	10,000	3,660	同上
第一生命保険(株)	16	1,828	同上
(株)ササクラ	1,000	525	同上

業務を執行した公認会計士

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は土屋善敬（大有ゼネラル監査法人に所属し、継続監査年数は6年）及び飯村忠昭（大有ゼネラル監査法人に所属し、継続監査年数は5年）であります。また、会計監査業務にかかる補助者は、公認会計士7名、その他1名であります。

取締役の定数

当社は、取締役の定数を7名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、株主総会における取締役の選任の決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

株主総会の決議事項を取締役会で決議することができるとした事項

イ．当社は、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、取締役会の決議によって自己株式を取得することができる旨定款に定めております。

ロ．当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
28,750	-	28,750	-

【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は定めておりませんが、当社の規模・特性及び監査計画に基づく監査日数等を勘案し、監査役会の同意を得たうえで、監査報酬を決定しております。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について、大有ゼネラル監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表は作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計監査法人等が主催する研修会等への参加並びに会計専門書の定期購読を行っております。

1【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,892,268	1,990,895
受取手形	1,354,126	² 1,834,567
売掛金	1,851,925	1,750,312
商品及び製品	183,992	200,270
仕掛品	714,075	789,403
原材料及び貯蔵品	1,220,060	1,354,205
前払費用	21,124	17,831
繰延税金資産	321,185	272,366
その他	87,596	109,993
流動資産合計	7,646,353	8,319,845
固定資産		
有形固定資産		
建物	¹ 1,955,623	1,991,587
減価償却累計額	1,473,057	1,507,242
建物(純額)	¹ 482,565	484,345
構築物	110,198	121,632
減価償却累計額	102,036	105,464
構築物(純額)	8,162	16,167
機械及び装置	¹ 5,287,809	4,850,413
減価償却累計額	4,848,087	4,519,254
機械及び装置(純額)	¹ 439,721	331,159
車両運搬具	1,900	1,900
減価償却累計額	1,880	1,899
車両運搬具(純額)	19	0
工具、器具及び備品	1,595,218	1,591,936
減価償却累計額	1,533,597	1,523,990
工具、器具及び備品(純額)	61,621	67,946
土地	¹ 1,258,597	1,013,291
リース資産	342,640	516,310
減価償却累計額	82,403	146,150
リース資産(純額)	260,237	370,159
建設仮勘定	-	5,505
有形固定資産合計	2,510,926	2,288,574
無形固定資産		
電話加入権	19,251	19,251
ソフトウェア	121,055	97,466
借地権	21,047	21,047
その他	4,944	3,930
無形固定資産合計	166,298	141,695

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	347,960	334,401
施設利用会員権	5,200	5,200
繰延税金資産	242,658	238,190
その他	60,761	60,700
貸倒引当金	5,200	5,200
投資その他の資産合計	651,380	633,293
固定資産合計	3,328,605	3,063,563
資産合計	10,974,959	11,383,408
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,074,799	² 1,273,097
買掛金	611,951	659,301
1年内償還予定の社債	-	80,000
1年内返済予定の長期借入金	¹ 574,500	442,500
リース債務	52,230	77,909
未払金	171,839	298,577
未払費用	11,765	11,448
未払法人税等	407,294	265,943
前受金	12,232	5,329
預り金	27,134	47,502
賞与引当金	599,984	571,556
役員賞与引当金	25,493	37,843
その他	82,959	52,014
流動負債合計	3,652,185	3,823,023
固定負債		
社債	-	280,000
長期借入金	968,000	525,500
退職給付引当金	562,782	612,110
役員退職慰労引当金	15,630	15,630
環境対策引当金	23,541	23,541
長期預り金	5,000	5,000
リース債務	214,395	300,842
資産除去債務	219,624	207,879
固定負債合計	2,008,973	1,970,503
負債合計	5,661,158	5,793,527

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,388,800	1,388,800
資本剰余金		
資本準備金	448,348	448,348
その他資本剰余金	400,000	400,000
資本剰余金合計	848,348	848,348
利益剰余金		
利益準備金	24,075	24,075
その他利益剰余金		
別途積立金	1,600,000	1,600,000
繰越利益剰余金	1,428,392	1,709,757
利益剰余金合計	3,052,467	3,333,832
自己株式	23,921	25,139
株主資本合計	5,265,694	5,545,840
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	48,106	44,040
評価・換算差額等合計	48,106	44,040
純資産合計	5,313,800	5,589,881
負債純資産合計	10,974,959	11,383,408

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	10,511,130	11,150,823
売上原価		
製品期首たな卸高	184,392	183,992
当期製品製造原価	7,353,106	7,735,564
合計	7,537,498	7,919,556
製品期末たな卸高	183,992	200,270
製品売上原価	1, 6 7,353,506	1, 6 7,719,286
売上総利益	3,157,624	3,431,536
販売費及び一般管理費		
荷造費	75,180	77,229
運搬費	61,453	68,129
役員報酬	95,100	97,560
給料	660,830	652,374
賞与引当金繰入額	180,432	172,706
役員賞与引当金繰入額	23,600	35,400
退職給付費用	132,759	133,799
福利厚生費	187,679	179,798
減価償却費	48,976	52,891
租税公課	46,035	46,497
賃借料	113,766	101,505
その他	594,699	574,470
販売費及び一般管理費合計	1 2,220,514	1 2,192,362
営業利益	937,109	1,239,174
営業外収益		
受取利息	190	190
受取配当金	8,169	9,286
助成金収入	13,100	-
受取保険金	-	11,885
その他	10,621	7,085
営業外収益合計	32,082	28,448
営業外費用		
支払利息	39,649	38,218
為替差損	1,743	-
その他	3,264	15,465
営業外費用合計	44,657	53,684
経常利益	924,534	1,213,938
特別利益		
固定資産売却益	2 10	-
受取補償金	-	7,340
特別利益合計	10	7,340

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別損失		
固定資産売却損	3 79	3 2,881
固定資産除却損	4 10,504	4 685
減損損失	-	5 250,833
投資有価証券評価損	-	4,430
環境対策引当金繰入額	9,008	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	186,068	-
災害による損失	49,334	8,392
特別損失合計	254,995	267,222
税引前当期純利益	669,549	954,056
法人税、住民税及び事業税	510,606	511,370
法人税等調整額	104,122	61,884
法人税等合計	406,483	573,254
当期純利益	263,066	380,801

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		3,024,457	40.6	3,289,585	42.1
労務費		2,429,579	32.6	2,463,027	31.5
経費		1,998,920	26.8	2,058,280	26.4
(内 外注加工費)		(675,853)		(763,019)	
(内 減価償却費)		(281,458)		(267,473)	
当期総製造費用		7,452,956	100.0	7,810,892	100.0
期首仕掛品たな卸高		614,225		714,075	
合計		8,067,181		8,524,967	
期末仕掛品たな卸高		714,075		789,403	
当期製品製造原価		7,353,106		7,735,564	

前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当社の採用している原価計算の方法 組別工程別実際総合原価計算であります。	当社の採用している原価計算の方法 組別工程別実際総合原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,388,800	1,388,800
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,388,800	1,388,800
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	448,348	448,348
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	448,348	448,348
その他資本剰余金		
当期首残高	400,000	400,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	400,000	400,000
資本剰余金合計		
当期首残高	848,348	848,348
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	848,348	848,348
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	24,075	24,075
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	24,075	24,075
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	1,600,000	1,600,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,600,000	1,600,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,222,158	1,428,392
当期変動額		
剰余金の配当	56,832	99,436
当期純利益	263,066	380,801
当期変動額合計	206,233	281,364
当期末残高	1,428,392	1,709,757

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
利益剰余金合計		
当期首残高	2,846,233	3,052,467
当期変動額		
剰余金の配当	56,832	99,436
当期純利益	263,066	380,801
当期変動額合計	206,233	281,364
当期末残高	3,052,467	3,333,832
自己株式		
当期首残高	23,103	23,921
当期変動額		
自己株式の取得	817	1,218
当期変動額合計	817	1,218
当期末残高	23,921	25,139
株主資本合計		
当期首残高	5,060,278	5,265,694
当期変動額		
剰余金の配当	56,832	99,436
当期純利益	263,066	380,801
自己株式の取得	817	1,218
当期変動額合計	205,415	280,146
当期末残高	5,265,694	5,545,840
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	76,503	48,106
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28,396	4,065
当期変動額合計	28,396	4,065
当期末残高	48,106	44,040
評価・換算差額等合計		
当期首残高	76,503	48,106
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28,396	4,065
当期変動額合計	28,396	4,065
当期末残高	48,106	44,040

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
純資産合計		
当期首残高	5,136,781	5,313,800
当期変動額		
剰余金の配当	56,832	99,436
当期純利益	263,066	380,801
自己株式の取得	817	1,218
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28,396	4,065
当期変動額合計	177,019	276,080
当期末残高	5,313,800	5,589,881

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	669,549	954,056
減価償却費	368,211	363,348
賞与引当金の増減額（ は減少）	141,196	28,428
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	4,000	-
退職給付引当金の増減額（ は減少）	41,139	49,327
その他の引当金の増減額（ は減少）	34,502	12,349
受取利息及び受取配当金	8,360	9,477
社債利息	-	2,300
支払利息	39,649	38,218
社債発行費	-	4,548
有形固定資産除却損	10,504	685
減損損失	-	250,833
災害損失	49,334	8,392
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 為替差損益（ は益）	186,068	-
	62	19
有形固定資産売却損益（ は益）	68	2,881
投資有価証券売却及び評価損益（ は益）	-	4,430
売上債権の増減額（ は増加）	245,687	385,730
たな卸資産の増減額（ は増加）	63,420	234,143
仕入債務の増減額（ は減少）	264,068	245,647
未払消費税等の増減額（ は減少）	17,570	13,693
割引手形の増減額（ は減少）	142,334	-
その他の資産の増減額（ は増加）	19,724	23,304
その他の負債の増減額（ は減少）	3,757	83,470
小計	1,346,466	1,353,118
利息及び配当金の受取額	8,360	9,477
利息の支払額	39,819	38,663
法人税等の支払額	123,434	651,947
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,191,573	671,985
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の売却による収入	45	1,240
有形固定資産の取得による支出	65,286	159,118
資産除去債務の履行による支出	-	14,900
投資有価証券の取得による支出	5,605	3,535
長期貸付金の回収による収入	160	-
無形固定資産の取得による支出	51,961	18,380
投資その他の資産の増減額（ は増加）	1,554	2,245
貸付金の回収による収入	-	160
投資活動によるキャッシュ・フロー	124,202	192,287

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	500,000	-
長期借入金の返済による支出	578,500	574,500
リース債務の返済による支出	44,446	61,542
配当金の支払額	59,122	99,241
社債の発行による収入	-	395,451
社債の償還による支出	-	40,000
自己株式の取得による支出	817	1,218
財務活動によるキャッシュ・フロー	182,886	381,051
現金及び現金同等物に係る換算差額	62	19
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	884,422	98,626
現金及び現金同等物の期首残高	1,007,846	1,892,268
現金及び現金同等物の期末残高	1,892,268 ₁	1,990,895 ₁

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

期末決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

原材料については総平均法、その他のたな卸資産については移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～65年

機械及び装置 9年

(2)無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3)リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4. 繰延資産の処理方法

社債発行費

支出時に全額費用処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員の賞与金の支払いに備えて、翌期賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

(3)役員賞与引当金

役員の賞与金の支払いに備えて、翌事業年度賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(4)役員退職慰労引当金

平成19年6月26日の定時株主総会終結の時をもって、役員退職慰労金制度を廃止致しました。既引当金残高は、各役員の退任時に当該役員に対し支給する金額をもって引当額を取り崩すこととしております。

(5)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異(1,603,277千円)については、15年による均等額を費用処理しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により、費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日から費用処理することとしております。

(6)環境対策引当金

「ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物の適正処理の推進に関する特別措置法」により処理することが義務付けられているPCB廃棄物の処理に係る費用の支出に備えるため、その処理費用見積額を計上しております。

6. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクシカ負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理について

税抜方式を採用し、未払消費税等は仮払消費税等と仮受消費税等を相殺して、流動負債の未払金に計上しております。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	399,409千円	- 千円
機械及び装置	92,782	-
土地	128,055	-
計	620,247	-

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	68,500千円	- 千円

2 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 千円	184,913千円
支払手形	-	27,520

(損益計算書関係)

1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	175,396千円	165,646千円

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
機械及び装置	10千円	- 千円
計	10	-

3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
機械及び装置	79千円	2,881千円
計	79	2,881

4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	4,373千円	182千円
機械及び装置	3,756	0
工具、器具及び備品	2,374	502
計	10,504	685

5 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
藤沢工場 (神奈川県藤沢市)	遊休資産	建物及び土地等

当社は、歯車及び歯車装置事業を藤沢工場グループとし、工事業を工事グループとしてグルーピングを行っております。なお、遊休資産については当該資産単独で資産のグルーピングを行っております。

各グループ単位において、減損の兆候はありませんでしたが、一部の固定資産が遊休状態となったことにより、将来の回収可能性を勘案した結果、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失（250,833千円）として特別損失に計上しました。その主な内訳は、建物5,152千円及び土地245,306千円であります。

なお、減損損失の測定に使用した回収可能価額は、不動産鑑定評価等を基にした正味売却価額により算出しております。

6 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、前事業年度末の戻入額と当事業年度のたな卸資産評価損を相殺した次の金額が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	42,592千円	31,800千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	14,280,000	-	-	14,280,000
合計	14,280,000	-	-	14,280,000
自己株式				
普通株式(注)	71,772	2,598	-	74,370
合計	71,772	2,598	-	74,370

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加2,598株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月23日 定時株主総会	普通株式	56,832	4.0	平成22年3月31日	平成22年6月24日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	71,028	利益剰余金	5.0	平成23年3月31日	平成23年6月24日

当事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	14,280,000	-	-	14,280,000
合計	14,280,000	-	-	14,280,000
自己株式				
普通株式(注)	74,370	3,566	-	77,936
合計	74,370	3,566	-	77,936

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加3,566株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	71,028	5.0	平成23年3月31日	平成23年6月24日
平成23年10月28日 取締役会	普通株式	28,408	2.0	平成23年9月30日	平成23年12月5日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	56,808	利益剰余金	4.0	平成24年3月31日	平成24年6月25日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度		当事業年度	
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
現金及び預金勘定		1,892,268千円		1,990,895千円
現金及び現金同等物		1,892,268		1,990,895

2 重要な非資金取引の内容

	前事業年度		当事業年度	
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
資産除去債務		219,624千円		- 千円
リース資産		- 千円		173,669千円
リース債務		- 千円		173,669千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として、歯車及び歯車装置事業における生産設備、ホストコンピュータ(「機械及び装置」及び「工具、器具及び備品」)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は以下のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	334,694	230,275	104,418
工具、器具及び備品	32,172	31,538	633
その他	26,023	17,767	8,256
合計	392,889	279,581	113,308

(単位：千円)

	当事業年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	269,694	206,070	63,624
その他	17,069	12,192	4,876
合計	286,763	218,262	68,500

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	46,720	40,658
1年超	76,163	35,503
合計	122,883	76,161

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位：千円)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	88,513	51,025
減価償却費相当額	78,678	44,807

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、国外売上に伴う外貨建の営業債権も、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建のものについては、為替の変動リスクに晒されております。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後7年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、各事業部門における営業管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社の投資有価証券については、主として株式であり、上場株式については定期的に時価や発行体（取引先）の財務状況等の把握を行っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき管理部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前事業年度（平成23年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,892,268	1,892,268	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,206,051	3,206,051	-
(3) 投資有価証券	336,947	336,947	-
資産計	5,435,267	5,435,267	-
(1) 支払手形及び買掛金	1,686,751	1,686,751	-
(2) 未払金	171,839	171,839	-
(3) 未払法人税等	407,294	407,294	-
(4) 長期借入金（1年内返済予定を含む）	1,542,500	1,542,306	193
(5) リース債務	266,625	268,336	1,711
負債計	4,075,010	4,076,528	1,517
デリバティブ取引	-	-	-

当事業年度（平成24年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,990,895	1,990,895	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,584,879	3,584,879	-
(3) 投資有価証券	323,389	323,389	-
資産計	5,899,164	5,899,164	-
(1) 支払手形及び買掛金	1,932,398	1,932,398	-
(2) 未払金	298,577	298,577	-
(3) 未払法人税等	265,943	265,943	-
(4) 社債（1年内償還予定を含む）	360,000	360,450	450
(5) 長期借入金（1年内返済予定を含む）	968,000	968,605	605
(6) リース債務	378,752	379,402	650
負債計	4,203,670	4,205,377	1,706
デリバティブ取引	-	-	-

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 社債（1年内償還予定を含む）

これらの時価は、市場価格のないものは、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、市場価格のあるものは存在しません。

(5) 長期借入金(1年内返済予定を含む)、(6) リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
非上場株式	11,012	11,012

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	1,892,268	-	-	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,206,051	-	-	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期が あるもの	-	-	-	-	-	-
合計	5,098,320	-	-	-	-	-

当事業年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	1,990,895	-	-	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,584,879	-	-	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの	-	-	-	-	-	-
合計	5,575,775	-	-	-	-	-

4. 社債、長期借入金及びリース債務の決算日後の返済予定額

附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. 子会社及び関連会社株式

前事業年度(平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(平成24年3月31日)

該当事項はありません。

2. その他有価証券

前事業年度(平成23年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1)株式	285,255	181,301	103,954
	(2)債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	285,255	181,301	103,954
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1)株式	51,691	74,618	22,926
	(2)債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	51,691	74,618	22,926
合計		336,947	255,919	81,027

(注)非上場株式(貸借対照表計上額 11,012千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(平成24年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1)株式	262,192	175,774	86,418
	(2)債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	262,192	175,774	86,418
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1)株式	61,196	79,250	18,054
	(2)債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	61,196	79,250	18,054
合計		323,389	255,024	68,364

(注)非上場株式(貸借対照表計上額 11,012千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 売却したその他有価証券

前事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

4. 減損処理を行った有価証券

当事業年度において、投資有価証券について4,430千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

前事業年度（平成23年3月31日）

当社は、デリバティブ取引を全く利用していないので、該当事項はありません。

当事業年度（平成24年3月31日）

当社は、デリバティブ取引を全く利用していないので、該当事項はありません。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付度の概要

当社は、確定給付型の制度として企業年金制度と退職一時金制度とを併用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務(千円)	3,937,866	3,830,597
(2) 年金資産(千円)	2,264,801	2,314,281
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(千円)	1,673,065	1,516,316
(4) 会計基準変更時差異の未処理額(千円)	534,425	427,540
(5) 未認識数理計算上の差異(千円)	585,450	476,664
(6) 未認識過去勤務債務(債務の減額)(千円)	9,593	-
(7) 貸借対照表計上額純額(3)+(4)+(5)+(6)(千円)	562,782	612,110
(8) 前払年金費用(千円)	-	-
(9) 退職給付引当金(7)-(8)(千円)	562,782	612,110

3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
退職給付費用(千円)	405,235	413,248
(1) 勤務費用(千円)	143,521	135,211
(2) 利息費用(千円)	99,772	94,036
(3) 期待運用収益(減算)(千円)	44,240	39,860
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(千円)	108,890	126,569
(5) 過去勤務債務の費用処理額(千円)	9,593	9,593
(6) 会計基準変更時差異の費用処理額(千円)	106,885	106,885

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
2.4%	2.4%

(3) 期待運用収益率

前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1.76%	1.76%

(4) 数理計算上の差異の処理年数

10年(各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。)

(5) 会計基準変更時差異の処理年数

15年による均等額を費用処理しております。

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

当社は、ストックオプションを付与していないため、該当事項はありません。

当事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

当社は、ストックオプションを付与していないため、該当事項はありません

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業所税否認	7,441千円	7,076千円
未払事業税否認	32,273	20,620
たな卸資産評価損否認	74,718	57,248
賞与引当金否認	243,773	216,962
減価償却超過額	8,402	7,639
退職給付引当金否認	228,658	218,091
役員退職慰労引当金否認	6,350	5,584
減損損失否認	-	89,246
一括償却資産超過額	5,154	5,106
環境対策引当金否認	9,564	8,936
資産除去債務過年度発生損益否認	75,599	61,791
災害損失否認	14,377	12,590
その他	2,370	4,750
繰延税金資産小計	708,686	715,645
評価性引当額	101,486	173,584
繰延税金資産合計	607,199	542,061
繰延税金負債		
其他有価証券評価差額金	32,921	24,324
除去費用(有形固定資産計上分)	10,433	7,179
繰延税金負債計	43,355	31,503
繰延税金資産の純額	563,844	510,557

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1	0.7
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.3	0.2
役員賞与等永久に損金に算入されない項目	1.6	1.1
住民税均等割	2.3	1.6
評価性引当額の増減	13.5	10.1
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	5.6
その他	1.9	0.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	60.7	60.1

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産は53,943千円減少(繰延税金負債は4,471千円減少)し、法人税等調整額が52,924千円、其他有価証券評価差額金が3,452千円、それぞれ増加しております。

(持分法損益等)

前事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

当社は、関連会社がないため、該当事項はありません。

当事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

当社は、関連会社がないため、該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

1. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

当社は本社工場の一部に使用されている有害物質を除去する義務に関して資産除去債務を計上しております。また、事業所の一部は、設置の際に土地所有者との事業用定期借地権契約を締結しており、賃借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上しております。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りにあたり、使用見込期間を取得から30年から45年と見積もり、割引率は2.134%から0.424%を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
期首残高(注)	204,945千円	219,624千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	14,028	-
時の経過による調整額	650	655
資産除去債務の履行による減少額	-	12,400
その他増減額(は減少)	-	-
期末残高	219,624	207,879

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

2. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上していないもの

イ 当該資産除去債務の概要

当社は、賃貸借契約に基づき使用する一部の事務所等について、退去時における原状回復に係る債務を有しております。又、本社工場の土地において、工場移転等が発生した場合に土地を浄化する債務を有しております。しかしながら、現在のところ移転等の予定もなく、かつ、土地の汚染に関しては汚染範囲が明確でないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該資産に見合う除去債務を計上しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、自動車用歯車及びジャッキ、バルブ・コントロール等の製造・販売を行っている「歯車及び歯車装置事業」と販売した歯車装置のメンテナンスを行う「工事業」の2部門にて事業活動を展開しております。したがって、当社は、「歯車及び歯車装置事業」と「工事業」の2つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント		合計
	歯車及び歯車装置	工事	
売上高			
外部顧客への売上高	6,955,932	3,555,197	10,511,130
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	6,955,932	3,555,197	10,511,130
セグメント利益又はセグメント損失（ ）	67,675	1,004,784	937,109
セグメント資産	2,947,922	1,483,487	4,431,409
その他の項目			
減価償却費	253,980	29,146	283,126
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	311,758	41,900	353,659

(注) セグメント利益の合計は、損益計算書の営業利益と一致しております。

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント		合計
	歯車及び歯車装置	工事	
売上高			
外部顧客への売上高	7,557,920	3,592,902	11,150,823
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	7,557,920	3,592,902	11,150,823
セグメント利益	209,153	1,030,021	1,239,174
セグメント資産	3,356,715	1,053,252	4,409,968
その他の項目			
減価償却費	240,440	26,454	266,895
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	243,496	26,843	270,339

(注) セグメント利益の合計は、損益計算書の営業利益と一致しております。

4. 報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

資産	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	4,431,409	4,409,968
「その他」の区分の資産	-	-
全社資産(注)	6,543,549	6,973,440
財務諸表の資産合計	10,974,959	11,383,408

(注) 各報告セグメントに配分していない全社資産であり、その主なものは当社の現金及び預金及び管理部門に係る資産等であります。

(単位:千円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		財務諸表計上額	
	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度
減価償却費	283,126	266,985	84,434	93,207	367,561	360,193
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	353,659	270,339	153,422	93,033	507,081	363,373

(注) 1. 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社管理部門に係る設備投資額であります。

【関連情報】

前事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	歯車及び歯車装置	工事	合計
外部顧客への売上高	6,955,932	3,555,197	10,511,130

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	歯車及び歯車装置	工事	合計
外部顧客への売上高	7,557,920	3,592,902	11,150,823

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：千円）

	歯車及び歯車装置	工事	全社・消去	合計
減損損失	-	-	250,833	250,833

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前事業年度 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）	当事業年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）
1株当たり純資産額	374.06円	393.60円
1株当たり当期純利益金額	18.52円	26.81円

（注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）	当事業年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）
当期純利益金額（千円）	263,066	380,801
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額 （千円）	263,066	380,801
期中平均株式数（株）	14,206,478	14,203,921

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	(株)クボタ	61,409	48,820
		(株)日伝	19,232	42,734
		(株)横浜銀行	102,954	42,622
		(株)みずほフィナンシャルグループ	284,159	38,361
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	61,000	25,132
		サンワテクノス(株)	26,256	21,792
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	5,984	16,294
		(株)東亜バルブエンジニアリング	10,700	13,589
		コスモ石油(株)	55,962	12,871
		日本軽金属(株)	94,000	12,408
		その他(13銘柄)	177,824	59,774
		小計	899,482	334,401
		計	899,482	334,401

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,955,623	65,358	29,394 (5,152)	1,991,587	1,507,242	58,244	484,345
構築物	110,198	11,571	137 (137)	121,632	105,464	3,428	16,167
機械及び装置	5,287,809	35,076	472,472 (237)	4,850,413	4,519,254	139,281	331,159
車両運搬具	1,900	-	-	1,900	1,899	18	0
工具、器具及び備品	1,595,218	59,317	62,598	1,591,936	1,523,990	52,489	67,946
土地	1,258,597	-	245,306 (245,306)	1,013,291	-	-	1,013,291
リース資産	342,640	173,669	-	516,310	146,150	63,747	370,159
建設仮勘定	-	179,022	173,516	5,505	-	-	5,505
有形固定資産計	10,551,988	524,015	983,428 (250,833)	10,092,575	7,804,001	317,210	2,288,574
無形固定資産							
電話加入権	19,251	-	-	19,251	-	-	19,251
ソフトウェア	201,802	18,380	1,900	218,282	120,815	41,968	97,466
借地権	21,047	-	-	21,047	-	-	21,047
その他	15,210	-	-	15,210	11,279	1,014	3,930
無形固定資産計	257,311	18,380	1,900	273,791	132,095	42,982	141,695
長期前払費用	-	4,714	-	4,714	1,893	1,893	2,820
繰延資産							
	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期増加額・減少額のうち主なものは次のとおりであります。

	当期増加額 (千円)		当期減少額 (千円)	
建物	21,420	歯車及び歯車装置事業	28,362	歯車及び歯車装置事業
	39,305	全社(共通)	1,032	全社(共通)
機械及び装置	16,310	歯車及び歯車装置事業	472,153	歯車及び歯車装置事業
	13,826	工事事業	319	工事事業
工具、器具及び備品	50,828	歯車及び歯車装置事業	60,885	歯車及び歯車装置事業
	6,180	工事部門	1,448	全社(共通)
リース資産	151,947	歯車及び歯車装置事業	-	歯車及び歯車装置事業
	19,518	全社(共通)	-	工事事業

2. 建設仮勘定のうち増加額の主なものは、型(41,267千円)、工場棟トイレ工事(23,800千円)、歯車装置試験用冷却塔更新工事(9,040千円)、本社アスファルト改修工事(7,981千円)、高架水槽更新工事(7,885千円)、ガス吸引装置設置工事(6,780千円)、複合加工機設置工事(5,827千円)、カッター(5,342千円)であります。

3. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【社債明細表】

銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
第1回無担保社債 (適格機関投資家限定)	平成年月日 23.9.30	-	360,000 (80,000)	1.15	なし	平成年月日 28.9.30
合計	-	-	360,000 (80,000)	-	-	-

(注) 1. ()内書きは、1年以内の償還予定額であります。

2. 決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
80,000	80,000	80,000	80,000	40,000

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	574,500	442,500	1.85	-
1年以内に返済予定のリース債務	52,230	77,909	2.28	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	968,000	525,500	1.82	平成25年～ 平成27年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	214,395	300,842	2.21	平成25年～ 平成30年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	1,809,125	1,346,752	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	310,500	165,000	50,000	-
リース債務	78,840	78,529	66,260	39,116

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	5,200	-	-	-	5,200
賞与引当金	599,984	571,556	599,984	-	571,556
役員賞与引当金	25,493	37,843	25,493	-	37,843
役員退職慰労引当金	15,630	-	-	-	15,630
環境対策引当金	23,541	-	-	-	23,541

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	1,829
預金	
当座預金	595,513
普通預金	1,213,218
通知預金	180,000
別段預金	334
小計	1,989,065
合計	1,990,895

ロ．受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
正法工業(株)	281,942
(株)成和	191,333
サンワテクノス(株)	188,541
(株)IHI回転機械	125,756
前澤工業(株)	106,692
その他	940,300
合計	1,834,567

期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成24年4月	409,090
5月	305,462
6月	358,030
7月	309,048
8月	230,883
9月	37,138
10月以降	184,913
合計	1,834,567

(注) 平成24年4月には期末日満期手形が含まれております。

八．売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
三菱ふそうトラック・バス(株)	128,927
正法工業(株)	73,755
(株)成和	55,218
(株)横田工業商会	55,075
サンワテクノス(株)	54,370
その他	1,382,963
合計	1,750,312

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%) (C) × 100 (A) + (B)	回転率(回) (B) ((A) + (D)) ÷ 2	滞留期間(日) 366 回転率
(A)	(B)	(C)	(D)			
1,851,925	11,688,765	11,790,378	1,750,312	87.1	6.5	56.4

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

二．商品及び製品

品目	金額(千円)
製品	
歯車装置	117,485
歯車	82,784
合計	200,270

ホ．仕掛品

品目	金額(千円)
歯車装置	361,177
歯車	192,367
工事	235,858
合計	789,403

へ．原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原材料	
鋳鍛品	204,094
加工部品	472,626
購入部品	412,964
歯車	184,993
モーター	38,603
小計	1,313,282
貯蔵品	
油塗料	9,966
消耗工具器具備品	7,069
不用品	62
雑品	23,824
小計	40,922
合計	1,354,205

流動負債

イ．支払手形

相手先別残高

相手先	金額(千円)
日祥梱包倉庫(株)	51,049
(株)大泉製作所	47,688
井上特殊鋼(株)	42,567
大和合金(株)	38,822
(株)有恒商会	33,991
その他	1,058,978
計	1,273,097

期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成24年4月	332,169
5月	307,222
6月	255,489
7月	257,542
8月	91,167
9月	29,505
10月以降	-
合計	1,273,097

(注) 平成24年4月には期末日満期手形が含まれております。

ロ．買掛金

相手先	金額(千円)
明電商事(株)	145,454
三菱ふそうトラック・バス(株)	62,925
井上特殊鋼(株)	19,559
日祥梱包倉庫(株)	17,475
(有)川原工業	13,597
その他	400,288
計	659,301

固定負債

イ．退職給付引当金

区分	金額(千円)
未積立退職給付債務	1,516,316
会計基準変更時差異の未処理額	427,540
未認識数理計算上の差異	476,664
合計	612,110

(3)【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高(千円)	2,621,750	5,101,621	8,310,935	11,150,823
税引前四半期(当期)純利益金額(千円)	290,030	549,524	813,972	954,056
四半期(当期)純利益金額(千円)	164,747	318,653	333,742	380,801
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	11.60	22.43	23.50	26.81

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	11.60	10.84	1.06	3.31

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	株式売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利並びに募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第109期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月23日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月23日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第110期第1四半期）（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）平成23年8月10日関東財務局長に提出

（第110期第2四半期）（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）平成23年11月11日関東財務局長に提出

（第110期第3四半期）（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成24年2月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年6月29日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成24年2月13日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令19条第2項第9号（代表取締役の異動）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月14日

日本ギア工業株式会社
取締役会 御中

大有ゼネラル監査法人

代表社員 公認会計士 土屋 善敬 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 飯村 忠昭 印
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本ギア工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第110期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本ギア工業株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本ギア工業株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、日本ギア工業株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。